

特集1

加藤靖也 新市長 インタビュー

4月24日(日)に行われた土岐市長選挙で初当選した加藤靖也新市長に、市政運営への意気込みを聞きました。

就任から1カ月。現在の心境は？

就任以来、たくさんの方とお会いしました。毎日の仕事を通して、あらためて市政を担う責任の重さを痛感しています。

「土岐市を再起動させるため、どのような政策で取り組みますか？」

市長選で訴えた『強いまちづくり』、『元気なまちづくり』、『優しいまちづくり』という3つの基本政策を、誠実に、公正に取り組みます。

1つ目の『強いまちづくり』では、何を行いますか？

強いまちであるために、経済力の強化は欠かせません。産業基盤を強固なものとし、経済を強くします。土岐市は地盤が固く地震に強いほか、高速道路とのアクセスに優れています。こうした立地状況の優位を生かすとともに、私自身がセールスマンとなって、積極的に企業誘致を進めます。

また、土岐市の大切な地場産業で

ある陶磁器産業は大変厳しい状況です。この難局を乗り越えるために、業界の皆さんと力を合わせ、技術と伝統の継承、新たな販路開拓、美濃焼ブランドの構築などさまざまな手を打ちます。

そして、災害に強いまちづくりです。東日本大震災にみられるように、大規模な災害が発生した時、行政機能が回復するにはかなりの時間がかかります。一刻を争うような事態では、まず、自主防災組織の活動が大切です。自主防災組織のリーダーを育成し、研修を行うことで、自主防災組織活動を活発にしていきます。備蓄・防災倉庫の強化、公共施設や学校の耐震化などと合わせ、名実ともに災害に強いまちをつくります。

2つ目の『元気なまちづくり』について聞かせてください。

元気の源は、市民の皆さんが土岐市を好きになることです。あらためてわがまちの良いところを知ってもらい、土岐市を好きになっていただきたい。学校教育では、郷土を愛する子供を育てるため、わがまちの歴史、産業、名所について知る機会を授業に取り入れます。また、少人数学級を推進し、きめ細かな指導によ

加藤市長 プロフィール

氏 名 加藤靖也(かとうやすなり)
生年月日 昭和29年7月2日(56歳)
経 歴 京都大学卒業 昭和53年から
32年間土岐市役所に勤務
趣 味 テニス・スキーなどスポーツ
全般、囲碁・将棋
好きな食べ物 すし、ラーメン
好きな言葉 継続は力なり



土岐市を 再起動！

る学力の向上や、悩みや相談を先生にじっくり聞いてもらうといった人間教育に力を注ぎます。

私は、人が生きていく上で最も必要なことは「生きがいと健康」だと思います。私はテニスやスキーなど、スポーツが大好きです。健康のためのスポーツ活動、学ぶ楽しさを見つめるための公民館活動などの環境を整備します。

元気なまちを実現するためには、人が集まる仕組みを作ることが必要です。駅前から西に延びる新土岐津線の整備と駅前に人が集まる施策を実施することで、まちの玄関口である駅前に賑わいを取り戻します。

強いまち、元気なまち、3つ目が『優いまちづくへん』です。

土岐市の主役は市民の皆さんです。子どもからお年寄りまで、皆さんが安心して暮らせるまちづくりを行います。子育て支援では、保育園と幼稚園の垣根を取り去り、子どもを預けたい方が利用しやすいシンプルなシステムを作りたいと考えています。高齢者福祉の充実では、日々の買い物や通院するときなどの移動手段の確保に努めます。民間と行政が連携した出張サービスや宅配サービスを実施するなど、お年寄りの方が住みなれた地域で安心して過ごせるようにします。

そして、市民の健康を守る総合病院の充実です。救急医療体制の充実をはじめ、かつては当たり前だった「ふるさと出産」、「わがまち子育て」を実現できる体制を作っていきたいと考えています。

市民の皆さんにメッセージを！

私は、市民の皆さんが自信を持って誇れるまちを実現するために、市長になることを決意しました。より良い土岐市を創るためには、市民の皆さんとの対話を通じた協働を欠かすことはできません。市政を任せられた4年間、皆さんとともに、全力で市政運営に取り組みます。